ひくまの : 浜松医科大学附属図書館報. No. 63

メタデータ	言語: jpn 出版者: 浜松医科大学附属図書館 公開日: 2018-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浜松医科大学附属図書館 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003392

浜松医科大学附属図書館報　No. 63　ISSN 0911-7822 Hikumano

ひくまの

Hamamatsu University School of Medicine
Library Bulletin　Mar. 2013
http:// www.hama-med.ac.jp/toshokan.html

目　　次

・図書館雑考　解剖学講座　神経機能学分野　教授　佐藤　康二 …… 1
・「癒し」や「ケア」とは何か、考えてみませんか
基礎看護学講座　教授　片山はるみ …… 2
・ラーニング・コモンズとの出会い　学術情報課長　井上　恵美 …… 4
・図書館システム更新による新機能　－リンクリゾルバの利用について－ …… 5
・メディカルオンラインを導入しました …… 7
・外国雑誌の冊子体から電子ジャーナルへの移行について …… 8
・トピックス
ラーニング・コモンズ（多目的学習空間）がオープン …… 8
・平成25年度開館カレンダー …… 8

図　書　館　雑　考

解剖学講座
神経機能学分野　教授　**佐　藤　康　二**

図書館とは何か？　このシンプルな問いかけから始めてみたい。ウィキペディアによれば、「図書館は、図書、雑誌、視聴覚資料、点字資料、録音資料等のメディアや情報資料を収集、保管し、利用者への提供等を行う施設もしくは機関である。」とのこと、簡単に言えば、様々な情報を集めて公に提供する場ということになるらしい。

それでは、なぜ、図書館が存在するのであろうか？　それは、図書館を有する文化の方が、それを有しない文化より競争力を持っていたからであろう。人類は、その進化の過程で、様々な情報を生み出してきた。最初は、狩猟の方法であったろうし、農耕の方法であっただろう。あるいは国の統治の方法であったり、祈りの方法であっただろう。いずれの分野にしろ、ある確率で優れた情報が獲得され、そして、その優れた情報や智慧を、言語化し、文字にして、保存することを繰り返して行く。その中で、図書館は自然に生まれていったに違いない。そして、それは、やがて学問として体系化され現在に至っている。どんな、学問でも、まずは先人たちの成果を学び、その最先端まで学習して初めて、学問の作り手となりうるわけであり、その意味で、図書館に学び、やがて図書館になんらかの貢献することが、学問に携わるものの一生であるということであろう。その繰り返しの中に我々はいるわけである。人類の遺産と

は、様々なものについてよくいわれることであるが、まさに、図書館とは人類の遺産そのものであると言っても過言ではないであろう。

神経科学的にみると、図書館の発生は、人類の大脳皮質の肥大化と言語の獲得に端を発していると考えられる。すなわち、人類の出現により、そして言語の出現により、地球の歴史上初めて、脳が作り出し得る情報が、脳の貯蔵能力を超えてしまったのである。そのために、人類は、言語を記載するために文字を作り出し、本を作り出し、その情報を空間的にも時間的にも共有することで、無尽蔵の情報を利用することが可能となった。その意味で、本とは先人たちの脳の一部であり、図書館は、先人たちの脳の博物館と言ってもいいかもしれない。またそれと同時に組織立った教育も始まったに違いない。なぜなら、その情報を共有するには、言語能力が不可欠であり、また各学術分野について基礎的な理解が必要だからであり、教育の本来の目的とは、まさに情報の共有のための準備とその継承にあるとも言えよう。

さて、ここまで人類は図書館を充実させ、様々な情報を有効利用することにより、確かに成功し繁栄した。しかし、また、現在新たな問題に直面している。極度の情報化の進行により、無限の情報が飛び交うようになってしまったのである。今や人類は、有史以来、数千年間に蓄積された情報量に匹敵する情報量を、毎日作り出し、やりとりしているのだ。その量たるや気の遠くなるものであるが、そのなかで、我々の脳は、莫大な情報の中に埋め込まれてしまっている。インターネットで検索すれば、瞬時にして無数の情報が手に入る。しかし、その情報はなにも担保のないもので、真偽も明らかではなく、誰が書いたかもあきらかでない。このような、匿名の膨大な情報に包囲され、我々の脳は、処理能力の限界を超している感がある。この情報の荒波を生き抜くには、何かが必要である。それはなんなのだろうか？

現代において、情報は、不特定多数の脳によって無限に生み出され続ける、そして、その同じ次元のまま広がっていき、コンピューターの支配する仮想空間に流れ込む。その状況は大海のようであり、収拾がつかない状況である。しかし、まてよ、脳は、また統合するという素晴らしい能力も持っているのだ、そうだ、括るのだ、還元していくのだ、それを大きく括る操作が必要だ。それを、様々な高い次元で括る操作が必要なのだ。その意味で、情報の選択と情報の統合ということがこれからは必要になってくる。情報の量の時代から、情報の質の時代への転換期を迎え、図書館は情報を提供する場としてのみならず、その情報統合の実践の場所としても益々重要性を増すことであろうし、図書館自体も主体的に統合した情報を発信して行く必要があるであろう。

最後に、場としての図書館についても考えてみたい。図書館は、従来の静かに本を読む空間から、人々の知的なコミュニケーションの場として捉えられだしている。最近、「ラーニング・コモンズ」なる言葉が流行っているが、「commons」とは、「入り会い地」のことらしい、すると、村人達が集って、入会地でわいわいがやがやと草を刈るようなイメージらしい。草のかわりに情報をみんなで刈り取る場ということのようだ、そのような空間を図書館に設置する意義とはなんなのだろうか？　最近よく思うのだが、現代社会では、知的な思索をするのに適した場所、知的な討論をするのに適した場所が、どんどんなくなっているのではないだろうか？知的な作業をするには、やはり適切な環境が大事であり、もともと大学というところは、俗世間から離れて、思索にふける大事な場であったはずである。ハイデルベルク大学に登場してもらわなくても、日本の昔の大学の広大な敷地、豊富な緑、レンガ作りの建物は、その空間を保証する大切なそして適切な場であったはずである。今の経済状況の中で、alte gute Zeitを懐古してもしかたないが、せめて、大学の図書館にはそんな空間を確保して欲しいものである。若い人々の脳が本当に満足する空間を提供できるかどうかが、今後の図書館の最重要課題であろう。本学の図書館では、多くの学生さんが、夜遅くまで勉学に励んでいる。そんな学生さんの、いつもの華やいだ雰囲気とは違った神々しい姿を眺めつつ、帰路につくのが私のひそかな楽しみである。本学の図書館の益々の発展を祈念する次第である。

「癒し」や「ケア」とは何か、考えてみませんか

基礎看護学講座　教授　**片　山　はるみ**

趣味と言えるほどの知識や経験もないので恐縮なのだが、私は動物の観察が好きで、機会があれば動物園や水族館などに足を運ぶ。その中で印象に残っている「癒し」、「ケア」の場面がある。

南オーストラリア州の州都であるアデレードの南の海岸から15キロの海上に浮かぶKangaroo Islandで、野生のアシカの哺乳場面を観た時のことである。徹底的に「管理された自然保護区」の中で、

人間の存在が彼らの邪魔にならぬよう細心の配慮をされた環境で、母アシカが我が子に哺乳している場面を、現地ガイドに「静かにね」と制されながら、しばらく眺めていた。私はケアを仕事とする者の一人として、「癒し」や「ケア」の原点を大自然の中にみたような気がして、素直にその場面に心を動かされた。

チンパンジーやイルカなどの豊富な実験や観察例を引きながら、「共感」が進化史上哺乳類に共通の特性であることを明らかにし、現在の利益優先社会を、「共感」を基盤とする新たな社会とするよう提唱する動物行動学者の向きもある。ここでは、その「共感」という行為の原点としての人間の「癒し」や「ケア」について、保健・医療・福祉の枠組みの中で考えてみたい。

現代の保健・医療・福祉のシステムにおいて、「癒し」や「ケア」は対価価値を持っている。それはどのような価値なのであろうか。

哲学者である石井は著書「癒しの原理－ホモ・クーランスの哲学」の中で、「医学が癒しの事実から目を逸らし、それを問題外に置こうとしたが故にこそ、医学は学問として、しかも近代的な自然科学として進歩することができたのである」と自然科学としての医学の発展を説明する。そして、健康という問題に対して「近代生物学的医学は、人間の疾病の克服を課題とするのであり、これに対して健康科学（この文脈では、医療における医学に対するその周辺領域としての看護やリハビリテーションの領域を指す）は癒しの事実とこれへの奉仕に向かうのである」また、「医学と健康科学とは、その関わる領域を同じくしながら、学問の出発点も方法もはっきりと違うそれぞれ独立した学問をなす、と考えなければならない」と「癒し」や「ケア」の独自の必然性を主張する。

これがどういうことなのか、詳細は推薦図書に委ねたいと思うのだが、「癒し」や「ケア」がどのような価値を持っているのかを説明する時の心強い論理であると私は理解している。ここで、石井の主張のように、現代社会において、近代科学である医学とは別に、「ケア」や「癒し」が、保健・医療・福祉の実践を成す重要な学問体系の一つと言えるとしよう。

さて、細分・高度化していると言われる現代医療の現場では、複雑で現実的な、そして多種多様な問題を、日々実践しながら解決していかなければならない。医療倫理学の分野で整理されている諸問題がそれに該当すると考えられ、「死（と生）」、「性と生殖」、「患者の権利と公共の福祉」を巡る諸問題等々、挙げればきりはない。そして、例えば「命を大切にする」ということにおいて、人間らしい尊厳ある死を希求するという価値を持つ人々と、人工呼吸器などの機器の力で生命を維持しながら幸福な日々を過ごしている人々、またそれをケアする人々との間には価値の対立が生まれ、一様には語れそうにない。その中でいわゆる「尊厳死法」の法制化の是非が、我が国では今まさに問われていることからは、日々私たちの拠り所が動いて（あるいはそれを動かして）いることを実感する。情報に敏感でなければならない、本当に大変な時代だと思う。



Kangaroo Islandの野生のアシカ

このような現代医療の現場では、消費者としての患者個人の価値が尊重されることが大切になっているので、近代科学である医学の力と、それを用いる医療システムで機能する「癒し」や「ケア」（学）の力とがバランスよく発揮されなければ物事が進まない現実がある。また医学と「癒し」や「ケア」（学）とは違う立場であるからこそ、複雑な問題において協働が強調され、かつ成り立ちもするのかもしれない。

今がとても大変な時代だから行き詰まっている、とは個人的にはあまり思わない。これは私が楽観主義的な性格だからかも知れないのだが、何より、それぞれの時代でそこに生きた人々が何とかやってきた歴史があるからである。人々の健康という問題に対して「癒し」や「ケア」は何ができるのか、そして自分は何をなすべきかという問いを、一緒に考えてみませんか。

何かを問うときのやり方には2通りあると言われる。一つはそのものをひたすら調べ、考えてみることで、もう一つはよく似た周辺のものと比べてそのものを省みるやり方である。「癒し」や「ケア」とは何かということにもし興味がおありなら、以下の図書を推薦したい。

石井誠士
『癒しの原理－ホモ・クーランスの哲学』
人文書院 1995

ラーニング・コモンズとの出会い

学術情報課長　**井　上　恵　美**

ラーニング・コモンズとの出会いは今から遡ること11年ほど前、2002年９月カナダ・ブリティッシュコロンビア大学メインライブラリーでのことである。国立大学図書館協議会（現、国立大学図書館協会）の援助でカナダと米国の３つの大学図書館を２週間程度調査した時のことであるが、当時の私には聞き慣れないcommonsにlearningが加わるとさらにわからない、これがラーニング・コモンズの第一印象だった。

その時の調査テーマがラーニング・コモンズではなかったこともあり、それについては大学図書館では（少なくとも私にとっては）見慣れない空間という程度の印象しかなかったが、帰国後ブリティッシュコロンビア大学図書館のホームページを改めて調査すると、当時それがその図書館で推進していた最新のプロジェクトであることがわかり、「そのうち日本にもこのコンセプトが伝わるのだろうなあ」とぼんやり考えた記憶がある。確かに、後日読んだ本によると我が国にラーニング・コモンズが本格的に紹介されたのは2006年であるとされているし、2002年当時の私には、ブリティッシュコロンビア大学図書館の光景を理解するための情報も知識もなかったのは無理からぬことだったと、少々弁解じみているが、そう考えている。

さて2002年のブリティッシュコロンビア大学のケースでは、天井の高いオープンスペースに20～30台程のPC、対面に置かれたいくつかのソファーやテーブルが配置され、加えて図書館資料とPC利用のための相談員も常駐しており、現在の日本のラーニング・コモンズで見られるのと同じような要素が、そこにはすでに揃っていた。図書館と大学情報ネットワークの担当部署が目に見える連携によりラーニング・コモンズを運営していることはもちろんのこと、ラーニング・コモンズのスタッフと利用者、また利用者同士がコミュニケーションを通じ学びの成果（outcomes）の向上を図るなどというアイディアは、非常に斬新なものに思えた。その当時、日本では電子ジャーナルが多くの大学で導入されるようになって間もないころであったが、カナダや米国ではすでにそれらが学術情報資源の主流をなすものとなっており、大学図書館では次のステージとして「場所としての大学図書館」の意義を模索しはじめた時期でもある。その過渡期に、私は運良く遭遇することができたのだ。

あれから10年以上経ち、その間に日本を含むアジアでもラーニング・コモンズは珍しいものではなくなった。2010年に韓国の延世大学校図書館、そして2012年には英国のグラスゴー大学図書館（**写真1**）、グラスゴーカレドニアン大学図書館（**写真2**）のラーニング・コモンズを見学する機会があったが、特に印象的だったのはグラスゴーカレドニアン大学図書館のライブラリアンにインタビューした際に、英国のライブラリアンが身につける課程の中には教育学も含まれることを聞いたことだった。「人はどのように学習するか」を学ぶことは、「学びの場」を標榜し、それを提供している図書館で働く者にとっても重要なことであるはずだというのが、私がこの10年間で得られた確信でもある。

平成21年から３年近く勤務した大阪大学附属図書館は、国内では早い時期からラーニング・コモンズを設置しているが、それに従事するスタッフとして図書館職員以外にもTeaching Assistantを置き双方協力して学習支援を行うなど、施設整備以外に学生の学習支援における人的支援を積極的に進めようとしている。このような努力は、日本の大学図書館で最近多く見られるようになっている。大学図書館の学習支援と言っても、もちろん大学カリキュラムがあってこそ成立するものであり、それは教員の方々にとって、また何より学生の学びのモチベーションに寄り添ったものでなければならないと考えている。

浜松医科大学附属図書館では、平成24年と25年にラーニング・コモンズの設置のため改修工事が行われる。さて、本学附属図書館の学習支援は今後どのように進めていこうか、毎日図書館スタッフと検討を重ねているところだ。



◀写真1
グラスゴー大学図書館
（2012年5月）



▶写真2
グラスゴーカレドニアン大学図書館
（2012年5月）

図書館システム更新による新機能
－リンクリゾルバの利用について－

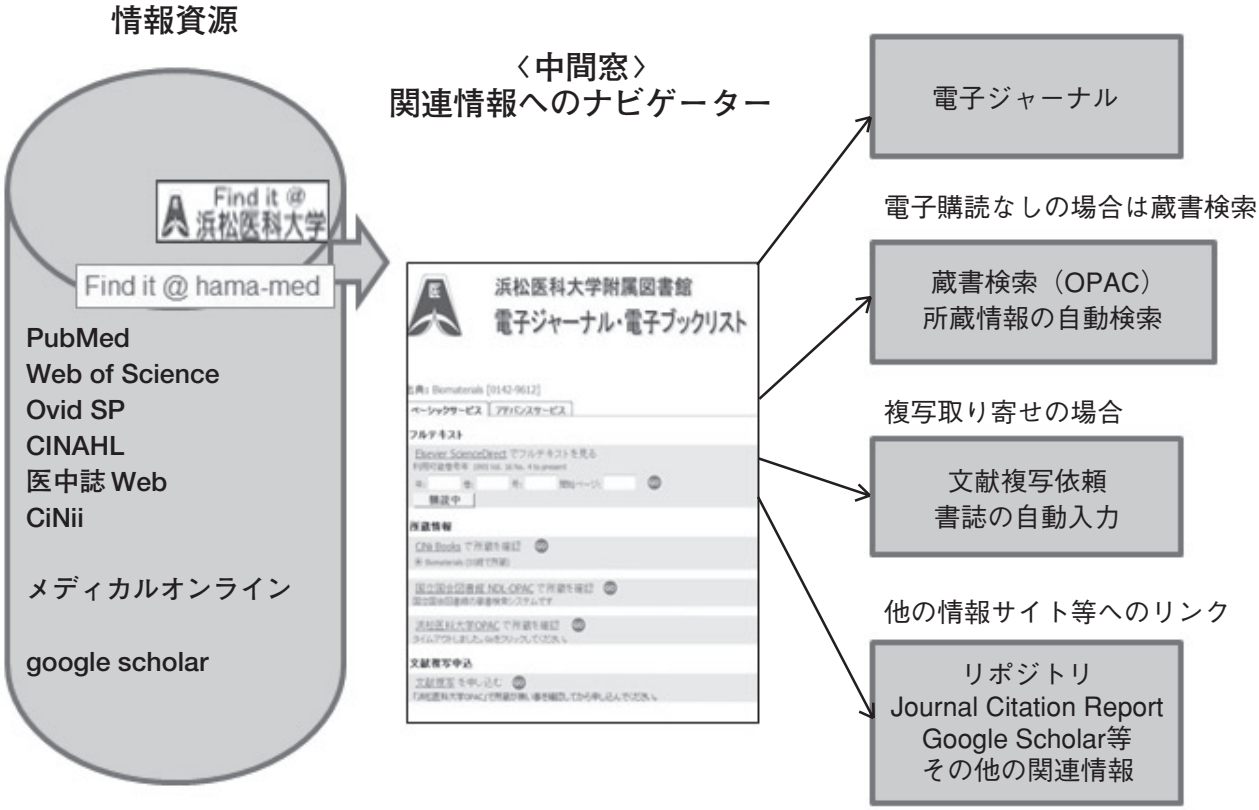
図書館では、図書館システム更新に伴いリンクリゾルバを導入しました。

リンクリゾルバとは

データベース、電子ジャーナル、図書館蔵書検索システム等の情報資源を相互にリンクし、ナビゲートするシステムです。

【リンクリゾルバの機能】

・データベース等の検索結果から電子ジャーナル等へリンク
・本学の蔵書検索結果も併せて表示
・他大学の所蔵情報検索（CiNii Books）が可能
・文献複写の申し込みへは、データベース等の書誌情報が自動入力される
・Google Scholarやインパクトファクター（JCR）などの関連情報へリンクされている



1. PubMed の場合

Pubmed（本学専用画面 URL）http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed？otool=ijphumlib

・URLは本学図書館ホームページPubMed入口からアクセス可能
・通常のPubMedではなく、上記の「浜松医科大学専用PubMed入口」のURLをブックマークされることをお勧めします。

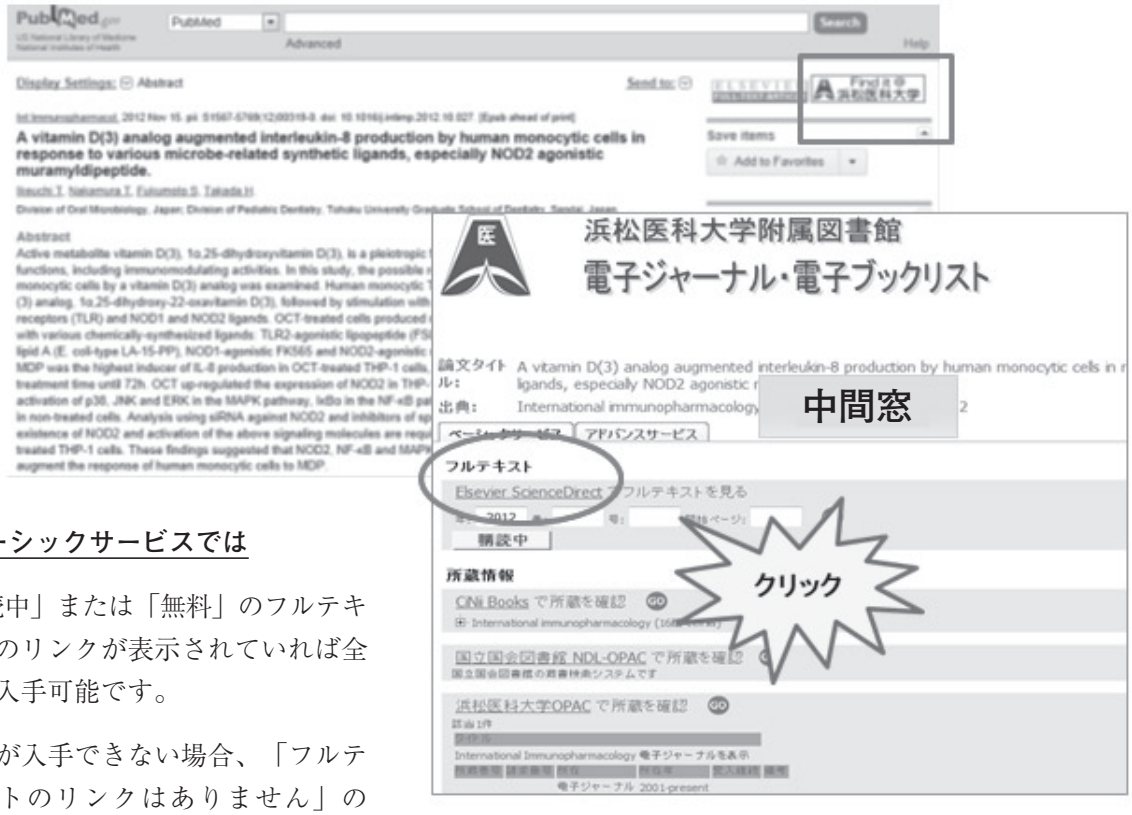
本学専用のPubMedそのほかの医中誌やCiNii、Web of Wcience等データベースの検索結果画面では、右のアイコンが表示されます。



2. Google Scholarの場合

Google ScholarではFind it @hama-medのアイコンが表示されます。
アイコンをクリックすると中間窓が現れます。

本学専用PubMed検索結果画面



3. ベーシックサービスでは

・「購読中」または「無料」のフルテキストのリンクが表示されていれば全文が入手可能です。

・全文が入手できない場合、「フルテキストのリンクはありません」のメッセージが表示されます。

・フルテキストの表示がなくても冊子体を所蔵している可能性があります。浜松科大学OPACで所蔵を確認してください。

・所蔵がない場合、「文献複写を申し込む」をクリックすると蔵書検索（OPAC）の検索結果画面の複写依頼のボタンが表示されます。
マイライブラリにログオンすると、書誌事項がそのまま転記されますので、確認後、オーダーしてください。

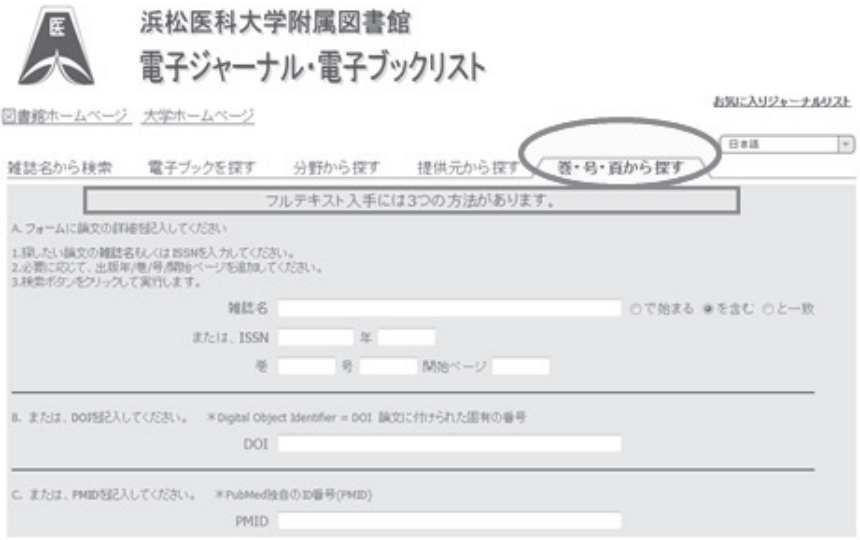


3. アドバンスサービス画面では

Web of Scienceでの著者検索のほかインパクトファクター、リポジトリにもリンクされています。

4. その他の機能

雑誌名をはじめ、分野別、出版社などの提供元のほか「巻、号、頁から探す」の項目では ISSN, DOI, PMID から文献の検索が可能です。



メディカルオンラインを導入しました

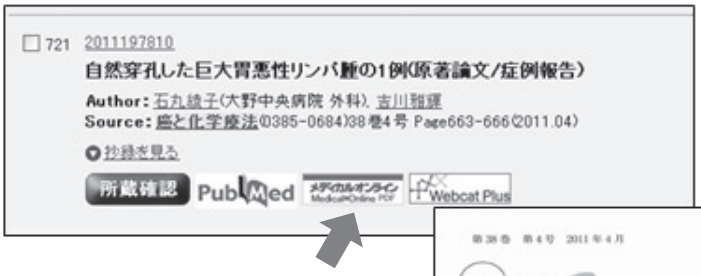
図書館ではメディカルオンラインを新規導入しました。

アクセスは図書館トップページまたは　http://www.medicalonline.jp/

インターネットで必要な文献を論文単位で即座に入手できる！
メディカルオンライン
Medical*Online　こちらから

メディカルオンラインとは

特徴　☆国内の学科誌・医学雑誌950タイトルの論文をPDF形式で収載
☆キーワード、タイトル、カテゴリーにより論文を検索可能
☆医中誌とのリンクにより、検索結果から論文が全文ダウンロード可



医中誌検索結果画面

メディカルオンラインのアイコンをクリックして文献をダウンロード
フルテキストを見ることができます。



ほかに「くすり」や「医療機器」の情報も探すこともできます。

情報サービス係

外国雑誌の冊子体から電子ジャーナルへの移行について

下記のタイトルについて電子ジャーナルへ移行しましたので、図書館ホームページの電子ジャーナルからご利用ください。

- American journal of epidemiology
- American journal of public health
- Analytical chemistry
- Annals of internal medicine
- Annals of the rheumatic diseases
- Archives of general psychiatry
- Archives of internal medicine
- Archives of neurology
- BMJ : British medical journal
- Diabetes
- Diabetes care
- Epidemiologic reviews
- Journal of bone and mineral research
- Journal of clinical oncology
- Journal of infectious diseases
- Thorax

トピックス　ラーニング・コモンズ（多目的学習空間）がオープン

附属図書館 1 階にラーニング・コモンズとAV視聴コーナーをオープンしました。
電子情報資源と図書館資料を活用し、個人・グループ学習、プレゼンテーション準備等にご利用ください。無線LANの利用もできます。平成25年度中には、2 階部分にも開設予定です。

平成25年度浜松医科大学附属図書館開館予定日

灰色は閉館日

平日　9：00−20：00
土・日曜日　10：00−17：00
夏季休業期　9：00−17：00

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

浜松医科大学附属図書館報「ひくまの」No. 63　　2013年3月29日発行
編集：図書館報編集委員会
発行：浜松医科大学附属図書館　〒431-3192 浜松市東区半田山一丁目20番1号　Tel. 053−435−2170　Fax. 053−435−5140